

## EGRシステムの詰りを解消し整備性向上を確認

ルブリコンA-112・A-212Dの清浄効果を確認する目的で、年式、型式が同じ2台の車両を使用し、1台の車両のみ燃料添加剤+オイル添加剤を添加投入し、約5万km走行後のEGRシステムに付着したカーボン量を比較検証を行った。実証の正確性を高めるため、テスト前に2台の車両ともEGRシステムのクリーニングを行い、見た目の判断だけではなく、カーボンの堆積をOBD(注1)EGRの差圧を比較した。

(注1)OBD (On Board Diagnostics)とは、「故障診断装置」EGRシステムの作動状況や電気系の断線などによる排ガス低減システムの異常をチェックして、トラブル発生時にはウォーニングランプを点灯させ、警告を行うシステム。

2台検証車両: 三菱ふそう 10トンダンプトラック 年式H24年

走行距離・同ルート・同積載

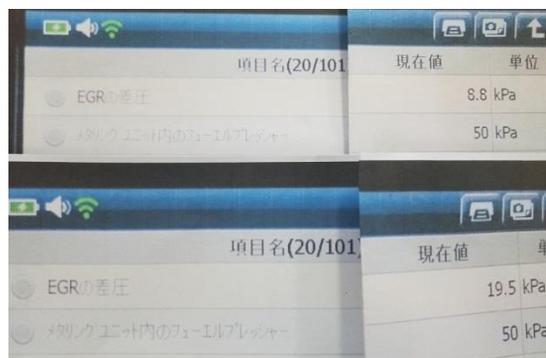
実証期間: 2018年10月1日～2019年2月末日

同社概要 九州～関西エリア コールド・チルド便配送業者様 10拠点 総保有車両数量200台

現在2拠点で主に4トン、10トンダンプトラックへLUBRICONを採用

→ ほぼ同一条件・環境

### 【検証結果】



ルブリコン添加なし

EGRの差圧 19.5kPa

ルブリコン添加あり

EGRの差圧 8.8kPa

### (考察)

ルブリコンA-112MとA-212Dを添加した車両のEGRの差圧指数は、添加なしと比較して、約半分の8.8kPaであった。EGRの差圧指数が大きい程、エンジンへの排気再循環がスムーズに行われていないことを意味する。したがい、ルブリコンを添加することにより、EGRバルブなどへ堆積するカーボン&スラッジ量が減少し、閉塞(詰り)による負荷も減り、効率的な循環が行え、事前修理/予防整備の役割を担えていると考えます。

追記事項になるが、ルブリコン添加なしと添加ありのアドブルー消費量を比較。添加なしは毎日補給に対して、ルブリコンを添加あり車両は3日間に一度のペースアドブルー補給であった。一般的に、EGRシステム、特にEGRクーラーが詰まると、アドブルー消費が増大する。